



毎年春・秋に開催されたキャバレーの芸能祭



十三 どんとこい祭り



藤田まこと後援会パーティー



ポンと運送社長
「英雄もカネでカタつくサ」
——近鉄アベノ店

あさればタダで仏国に返す

「英雄もカネでカタつくサ」は、近鉄アベノ店の社長、ポンと運送社長の自伝。ポンと運送社は、近鉄アベノ店の社長、ポンと運送社長の自伝。ポンと運送社は、近鉄アベノ店の社長、ポンと運送社長の自伝。

(毎日新聞 昭和47年12月20日付)



昭和30年代の阪急十三駅



昭和47年(1972年)キャバレー「大統領」
創業者 富岡徳太郎氏

Juso History



キャバレー「ふうりゅう」節分の仮装大会

十三物語

ネオンに映える街 十三の昔と今

賑やかで庶民的 活気に溢れる街、十三

梅田や北新地に比べて、十三には「庶民的で活気に溢れた歓楽街」というイメージが思い浮かびます。地名の由来は、旧摂津国西成郡の南端を一条としたとき、北に向かって順に数えると十三条の場所に当たるといふ説や、かつてあった淀川の渡しが、上流から数えて13番目だったからという説など、諸説あるようです。江戸時代には、当時の通貨、寛永通宝がここで鑄造されており、「酒は灘・銭は加島」といわれたほどでした。

昭和30年代から40年代にかけて、十三はおおいに活気づきます。昭和39年には、東京オリンピックが開催され、東京へ大阪をつなぐ東海道新幹線が開通しました。それに伴う大阪駅の建設工事や、昭和45年に開催された「大阪万国博(日本万国博覧会)」、千里ニュータウンの開発など、高度成長時代の波に乗って、大阪北部で大型の建築工事が続きました。建築に携わっていた工事関係者の多くが、仕事の後にこぞつてやってきたのが、「こゝ十三だったのです」。

そんな黄金時代の幕開けとも呼ぶべき、昭和32年にオープンしたのが、アルサロ(アルバイトサロン)「ふうりゅう」でした。創業者の富岡徳太郎氏は、後に「十三のキャバレー王」とも呼ばれた人物です。続いて、豪華なシャンデリアがシンボルのグランドキャバレー「大統領」もオープンしました。このとき、富岡氏は、大阪アベノ近鉄百貨店(現

あべのハルカス近鉄本店)で開催された「西洋骨董市」の目玉として登場した、フランス皇帝・ナポレオンの帽子を3000万円で落札し、大きな話題を呼びました。店内に飾られた、ルーブル美術館認定のこの帽子見たさに、連日、大勢の客で賑わったそうです。その後もキャバレーのオーブンが相次ぎ、十三の街は美しいネオンで彩られた、夜の歓楽街へと移り変わりました。昭和46年には、「梅田離れて中津を過ぎりや思い出捨てた十三よ」の歌いだしで知られる、藤田まことさんの「十三の夜」が全国的にヒットしたこともあり、十三の知名度は一気にあがりました。

淀川に面する十三では、毎年8月、「なにわ淀川花火大会」が開催されています。今では「十三の夏」を彩る風物詩ともなっているこの花火大会は、それまで開催されてきた「十三どんとこい祭り」の運営委員会を母体として実施されています。その中核を担ってきたのが、「十三社交事業連合会」でした。「十三どんとこい祭り」は、盆踊り大会や商店街でのパレードなど、地元の人達に親しまれる恒例イベントとして、これまで16回にわたり開催されてきました。浜村淳さんや菅原文太さんなど著名な芸能人が、ゲストとして来場することもあったといえます。

「十三社交事業連合会」が目指したのは、地域の企業や住民と一緒に十三の街を活性化することでした。「十三社交事業連合会」が実践する「地域社会との協働」と「地域への貢献」が、今もなお人を惹きつける十三の活力になっているのかも知れません。